

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	文屋 典子	職名	講師	学位	修士(社会学) (関西学院大学 1994 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研 究 課 題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担 当 授 業 科 目
相談援助の理論と方法Ⅱ (通年) 相談援助実習指導Ⅰ (通年) 相談援助実習指導Ⅱ (通年) 相談援助実習 (通年) 相談援助演習Ⅱ (前期) 基礎実習 (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅲ (通年) 保育実習Ⅲ (通年) 保育の表現技術Ⅰ (前期) 家庭支援論 (前期) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅱ 】</p> <p>一般システム理論がソーシャルワーク理論の中にどのように組み込まれ、現在のソーシャルワーク実践に結びついているかを理解すること、ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用的視点を理解し、問題状況を捉える“視点”を涵養することに重点をおいた。</p> <p>ソーシャルワークのアプローチについては単なる暗記に終わらず、その起源となる社会的背景や基盤理論をふまえてそれぞれの特徴を理解することの重要性を繰り返し伝え、詳細な解説に努めた。具体的な事例を用いることにより、アセスメントや介入における各アプローチ特有の“視点”を理解すること、クライアントの状況に応じて、どのアプローチの視点に立ち、どのように問題を捉えて、解決に向けた支援のプランを描くことができるかを考察することに重点をおいた。</p> <p>学生には毎回の授業でリアクションペーパーに授業内容を要約して提出することを課し、記述内容から学生の理解度の把握と授業内容や進め方の見直しに役立てた。また、理解が不十分な点や誤りについては添削して返却、補足説明を行った。</p>

授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】

グループディスカッションを行う中で、学生同士が自身の意見を表明しながら、他者の意見を慎重に聴き取り、自分とは異なるものの見方を理解しようとしたり、一つの方向性にまとめていくために意見をすり合わせたり、試行錯誤の中で“話し合っただけで答えを出す”プロセスを学ぶ姿が見られた。援助関係形成のためのコミュニケーション技法を習得すると同時に、よりよい援助を実践するために協働するためのコミュニケーション技術を学んでいること、ことばの背後にある専門職としての価値観や倫理観を養うこと、事例を検討するうえで各専門科目の授業で得た知識をいかに活用してソーシャルワーク援助が組み立てていくのかを実際的に学ぶことに重点を置き、授業を展開した。

授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】

実習前の事前学習では個別指導を複数回行い、各自の関心事と実習に臨む姿勢・準備性をふまえたうえで、実習課題を明確化するよう心掛けた。前期実習終了後には、自己の実習課題に対する達成度と後期の実習までに自身が取り組むべき課題について各自が振り返りを深めるワークに取り組み、さらに成長して後期実習に臨むことができた。前期実習の終了から後期実習開始までの期間に学生が取り組んだ内容、成長した部分などを実習先の実習指導者と共有する中で、実習指導者より実習生に対するさらに細やかな指導やサポートをいただいたと同時に、各実習生の前期実習からの大きな成長を評価していただくことも多くあった。後期実習終了後は、全員が達成感に満ちた表情で、実習での学びの報告をすることができた。

授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】

子どもの発達や特性、子どもと家庭をめぐる社会的状況や社会的養護の現状について、グループ学習やプレゼンテーションを中心に学びと考察を深めた。見学実習においては、学生が実際に子どもたちとの関わりを体験し、知識理解を深めるきっかけとなること、自己の克服すべき課題に気づき、実習に向けて各自が目標と課題を明確にして事前準備に取り組むことをねらいとした。

授業科目名【 基礎実習 】

本科目は福祉の1年次に対人援助の現場で体験型の実習を行い、対人援助の仕事と利用者に対する理解を深めると同時に、福祉への学びの意欲を高めようとするものである。実習前には対人援助職に求められる基本的な姿勢について学び、実習への動機が高まるようグループ学習と個別指導を実施した。また、自己学習により実習先の理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。

授業科目名【 家庭支援論 】

現代の家族をとりまく状況を概観し、個人と深いかかわりをもつ家族に目を向けて支援することの意義、家族の様々なかたち、家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論をふまえ、家庭支援に求められる援助者の多角的な視点を学生が理解できるよう努めた。本科目は知識習得にとどまらず、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲へとつながれば、卒業後も実践者としてさらに学びを進化させることにつながるものとする。数年前と比較すると、提出されたレポートの内容はよくまとめられたものが多かったが、「何を、どのように」調べ、考察し、レポートにまとめるのかを、評価の観点として学生に具体的に提示したことによる効果も加わったものとする。

授業科目名【 保育実習指導Ⅰ 】

本科目は3年次8月の保育所実習、3年次2～3月の施設実習の実習前・実習後指導に当たる科目である。実習目標の設定や実習計画書の作成、実習記録の書き方の指導においては保育士としての専門性を学ぶということを意識させ、特に施設実習においては社会福祉士としての視点と保育士としての視点が学生の中でも混在する部分を整理して、“社会福祉士としての視点をもちつつ保育士としての専門性を学ぶこと”について学生が理解して実習に臨めるよう実習前指導を行った。実習前の授業で保育技術についての演習を取り入れたことが、実習先での実践にもつながり、実際に子どもたちに対して保育活動を実施するうえで、留意すべきこと、保育の技術や知識を習得していくうえでの自己の課題について、各自が学びを深めるきっかけとなった。

授業科目名【 保育実習指導Ⅲ 】

本科目は3年次の保育所実習と施設実習を踏まえ、児童福祉施設における保育実習を希望する学生が履修する科目である。これまでの保育実習、相談援助実習において学んできたことと自身の課題をふまえて、実習目標を設定し実習計画書の作成すること、事前学習として、実習先での支援の実際、利用者や児童福祉施設の現状について理解を深めて実習に臨むよう、個別指導に重点をおいた。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りに関して各学生の学びや課題を整理し、実習のまとめと実習報告につなげた。

授業科目名【 保育の表現技術Ⅰ 】

学生のこれまでのピアノの習熟レベルに応じて課題を設定し、各自、個人練習を効率的に行えるよう練習計画を立てて授業に臨むよう指導した。今年度はピアノを弾いた経験のない学生・楽譜を読めない学生が多くいたため、指の動かし方や音感などピアノを演奏するうえで大切となる感覚を養うことと同時に、楽典の知識を習得して楽譜を自分で読めるようになることを一人ひとりの目標として意識させ、指導を行った。“弾けるようになりたい曲”を目標に設定することで、学生一人ひとりが練習に意欲的に取り組むことができ、すべての学生が目標を達成することができた。

授業科目名【 保育者論 】

学生の主体的に学ぶ意欲を高めてほしいと考え、視聴覚教材や保育教材を用いて具体的な子どもの姿をイメージすること、グループディスカッションや学生が発言する機会を多く設け、専門用語や知識を的確に用いて自分の考えを表明することに力点を置いた。また、福祉学科子ども家庭福祉コースにおいて、ソーシャルワークに関する知識や技術として学んでいることと、保育の知識・技術を修得することがつながる部分をできるだけ多く取り上げ、2つの専門性を習得することの強みを自覚して、学生の学びの意欲がさらに高まることをねらいとした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		1992年10月～ 現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年3月～ ”
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991年11月～ ”
日本家族研究・家族療法学会		1998年11月～ ”
日本小児保健学会		1997年5月～ ”
日本特殊教育学会		1999年8月～ ”
日本保育学会		2011年10月～ ”
日本医療保育学会		2016年5月～ ”

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月 桃子 野井 未加 山本 佳代子 樋口 由貴子	2,009,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人 喜久茂会 北九州市 母子生活支援施設指定管理者検討会	評議員 構成員(検討会座長)	2017年4月1日～2021年6月 2019年10月
北九州市 ほっと子育てふれあい事業業務運営事業者選考委員会	委員長	2020年2月3日～2020年3月31日
社会福祉法人カリタスの園天使育児園運営改善委員会	委員長	2018年1月19日～2020年3月3日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生委員 キャンパスハラスメント相談員 吹奏楽部顧問